大雨等の影響で水稲を収穫できなかった場合の対策と影響

～年内から次作の移植前までに行う対策について～

令和８年１１月１３日
農林水産部担い手支援課

令和８年８月から９月にかけての大雨や台風の影響により、倒伏や穂発芽が発生したほ場では収穫できなかった事例が見受けられます。そうしたほ場では、来年の水稲の生育に悪影響を及ぼす可能性があるため、年内から対策に取り組みましょう。

年内に行う対策（早期のすき込みが重要！）

（１）**排水対策を行い早期にほ場を乾かしましょう。**機械が入れるようになったら、流れ込んだゴミなどはできるだけ取り除いた後、トラクターモアやハンマーナイフモア等で稲を細断しましょう。

（２）稲わら等のすき込みは、**ほ場が乾いたら早期に作業を行い、耕うん深度は浅め（５～１０㎝）としましょう。**

（３）稲わら等の分解を早めるため、腐熟促進剤や石灰窒素を活用しましょう。石灰窒素の１０ａ当たりの施用量は１０～２０ｋｇが目安となります。

次作の移植前までに行う対策

（１）施肥管理について

ア　茎葉と籾をすき込むことから、例年以上に土壌中の有機物含量が多くなるため施肥管理には注意が必要です。特に倒伏の心配があるほ場では、施肥窒素量を減らしましょう。

イ　腐熟促進のために石灰窒素を使用した場合は、倒伏を避けるため施肥窒素量を減肥するなどしましょう。

（２）漏生イネ（こぼれ籾）対策

ア　異品種混入を防ぐため、なるべく前作と同じ品種を作付けしましょう。

イ　漏生イネは４月上旬から出芽をはじめ、４月下旬にはほとんどの籾が出芽します。そのため、４月下旬以降に代かきを実施しましょう。
また、代かき後にプレチラクロールを含む除草剤【例、エリジャン乳剤（植代後～移植７日前まで)】を散布しましょう。

収穫できなかったほ場で予想される被害

（１）作業性の低下

稲を細断してすき込まなかった場合、耕うん作業の際にロータリー等に稲わらが絡まりやすくなり、作業性が著しく低下します。

（２）活着不良による初期生育の不良

例年よりも有機物が多く施用されているため土壌中に未熟な有機物が多くなり、生育初期に水稲と土壌中の微生物との間で窒素の競合（窒素飢餓）が発生して、活着不良や初期生育が阻害される恐れがあります。

（３）分げつ期の還元障害による根痛みや生育阻害

気温上昇とともに微生物の働きが活発となるため、分げつ期に土壌中が酸素不足となり還元化が進みます。そのため、根の生育に有害なガス（硫化水素等）が発生して、水稲の生育が阻害されます。

（４）生育後半に地力窒素が発現して、倒伏や病害が発生

生育後半には、地力窒素が急激に発現して生育旺盛となり倒伏につながります。また、いもち病や紋枯病の発生につながる可能性があります。

（５）収穫物への漏生イネの混入

適切に耕うんしても、すき込まれた籾の一部が出芽（漏生イネ）する可能性があります。漏生イネは移植した稲と比べて生育が遅いため、収穫物に混入すると品質低下を招きます。特に作付品種を変更した場合には、異品種混入につながる危険性があるため注意が必要です。

水稲の栽培管理に関する問合せ先

事務所名	電話番号
千葉農業事務所改良普及課	043-310-3224
東葛飾農業事務所改良普及課	04-7162-6151
印旛農業事務所改良普及課	043-483-1124
香取農業事務所改良普及課	0478-52-9195
海匝農業事務所改良普及課	0479-62-0334
山武農業事務所改良普及課	0475-54-0226
長生農業事務所改良普及課	0475-22-1771
夷隅農業事務所改良普及課	0470-82-2213
安房農業事務所改良普及課	0470-22-8132
君津農業事務所改良普及課	0438-23-0299
担い手支援課	043-223-2911

注）千葉農業事務所改良普及課は、令和８年８月１日に移転したため、
移転後の電話番号を記載しております。